

# 美術科学習指導案

期 日 2005年 9月 29日 (木) 4 教時  
 生 徒 銀山中学校 2年生  
 男子 8名、女子 5名、計 13名  
 指導者 教諭 澤 田 康 司

## 1. 題材名 「人間の姿、心のかたち」(表現:彫塑領域)

## 2. 題材設定の理由

本校 2年生は、例年、1年間の前半を「自分を見つめる」というテーマをもって学習に取り組ませている。それは、中学 2年生という時期が肉体的にも精神的にも発達途上の中途半端な状態になりがちな学年であるということから、常に自分と向き合う機会を持たせる必要があると感じているからである。1学期に絵画表現による「自画像」を制作している。この活動を行う際に、自画像が終わったら次はその経験を生かして頭像をつくるということをあらかじめ指示してある。

生徒はほとんどが真剣に題材に取り組んでいるが、数名なかなか作業が進まず、投げ出し気味になる子もいる。だからこそ、自分と真剣に向き合うことが今必要であると考え。この題材では、「うまく自分に似せてつくる」ことが目標ではなく、頭部の構造を観察する中で自分の表面的な特徴をつかむとともに、日常のさまざまな想い(喜び、悲しみ、不安、怒りなど)を作品の中で表現させることがねらいである。

## 3. 題材の目標

- (1) 自分と真剣に向き合い作業をすることができる(関心・意欲・態度)
- (2) 観察を通して、立体としての作品のイメージを把握することができる(発想・構想)
- (3) 粘土の特性を理解して、いきいきとした表現ができる(表現の技能)
- (4) 互いに作品を鑑賞して、そのよさを味わうことができる(鑑賞の能力)

## 4. 単元の全体計画・評価計画

題材名 「人間の姿、心のかたち」(表現:彫塑領域)							
時配	学習内容	評価の観点				評価規準	評価方法
		関	創	技	鑑		
1	制作手順の把握 心棒の制作	◎		◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考作品を鑑賞し、作者の想いについて意見を発表できる(関)</li> <li>・手順を把握し、しっかりとした心材をつくる(技)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉形態での対話から</li> <li>・活動観察、作品チェック</li> </ul>
2	粘土の粗付け		◎	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体としての作品をイメージしながら粘土を粗付けすることができる(構、技)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動観察、作品チェック</li> </ul>
4	細部の制作 (本時 4 / 8)  肉付け仕上げ	○	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鼻、目、口、耳など顔の各部をよく観察しながら表現することができる(技)</li> <li>・意欲的に取り組むことができる(関)</li> <li>・テーマ(表現したい想い)に基づき完成をイメージしながら作業をすることができる(構)</li> <li>・友達の作業を観察し、工夫点などを見つけることができる(鑑)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動観察、作品チェック</li> <li>・活動観察</li> <li>・活動観察、作品チェック</li> </ul>
1	作品鑑賞会	○			◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの作品を鑑賞し、よい点を発表することができる(鑑)</li> <li>・自分の作品への想いを発表できる(関、鑑)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動観察、鑑賞シート</li> </ul>

5. 本時の指導計画

(1) 本時の目標

- ・鼻、目をよく観察しながら意欲的に表現することができる

(2) 本時の展開

時間	学習活動・教師の活動	評価場面(観点)・留意点
5	○前時の作業を確認 ・粘土の粗付けをしてきたけど、どんなことに注意しながらすすめたかな？ (予想) 完成したイメージを持ちながら 自分の骨格(顔のかたち)に似せながら など	
5	○今日の作業把握 ・鼻はどの辺にある？どんな形をしている？口は？目や 頬は？手を汚さないうちにしっかり触って指で形を捉 えてみよう。指先で形を覚えてみよう。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">よく観察して鼻と目を表現しよう</div>	<活動観察>…(関・構) ・「いいものをつくろう」とい う気持ちが行動に表れる ※立体としての認識が薄い中で、 実物に触って立体をイメージ させる
25	○作品の上で粘土ペラを使ってデッサンし、中心とな る鼻から目の順に作業をすすめる。 ・作業する以上にじっくり集中して観察しよう。 ・バランスを考えながら大まかな形を捉えよう。 <u>※導入時に行った指の感覚でつかんだイメージを想起させる</u>	<活動観察>…(関・構・技) ・部分に執着するのではなく、 全体のバランスを常に見なが ら作業をすすめさせる <作品チェック>…(技) ・しっかり観察をしながら制作 をすすめることに重点を置く
5	○数点の作品を取り上げて鑑賞する(作品交流)。 ・□□の作品の「いいなあ」と思うことを発表しよう。 ・いいと思ったことは次の時間から自分の作品にどんど ん取り入れよう。	<対話・活動観察> …(関・鑑)
5	○後始末・次回予告・挨拶	

(3) 本時の評価基準

- ・A…イメージを大切にし、しっかり観察してバランスよく鼻や目を表現することが  
できる
- ・B…しっかり観察して鼻や目を表現することができる。

## <ここまでの作業工程>

### 【1時間目】 導入

- ・題材の紹介
- ・何故、この題材を扱うのか
- ・自分の「想い」を表現しよう  
作品づくりにおける作者の表現意図  
(その作品で作者が表現したいと思うこと)を明確にすることにより、強烈な自己表現として意図が作品に表れる



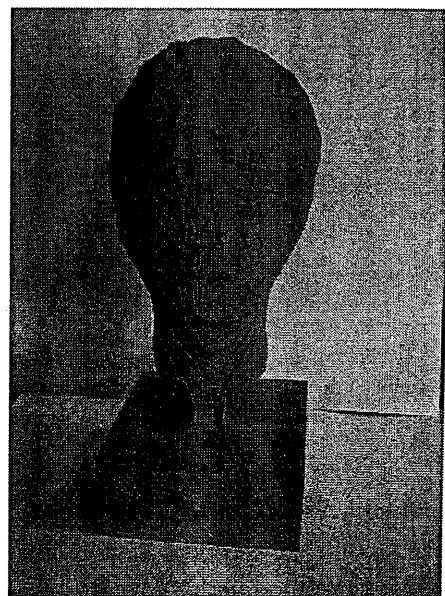
### 【2時間目】 芯づくり

- ・芯材(教材で購入)を組み上げる  
※今回は粘土の不足を補うために、  
芯材の上に新聞紙を巻き、しゅるなわ棕櫚縄で固定する方法を試みた。新聞紙による肉付けにより、顔の大きさ、前後の厚み、首の太さを粘土をつける前に調整することが可能になる。反面、水分を吸収することにより新聞紙が収縮し、縄がゆるくなり、粘土が欠落するおそれがあるため、しっかりと縄を結ばせている。



### 【3時間目】 粘土の粗付け

- ・粘土を粗付けし、大まかな輪郭(骨格)づくりを行う。
- ・粘土が落ちないように、棕櫚縄にすり込むように粗付けをしていく。
- ・作品の上でヘラを使ってデッサンを行う(顔の中心、鼻、目、口などの位置を鏡で観察)。



# 自画像(頭像)の制作表

名 前

自己評価欄・・・A～よくできた(わかった)、B～だいたいできた、C～あまりできなかった

	自己評価	自己評価の結果に対する考え・理由
1. 作業の手順はわかりましたか?	A B C	
2. 作品制作について、作者の表現意図(何を表現したいのか)の必要性についてどう考えますか		
3. 制作前の時点で、作品の中で何を表現しようと考えていますか?		
4. 芯づくりはしっかりできましたか?	A B C	
5. 輪郭(骨格)、首づくりを大まかにできましたか	A B C	
6. 作品上でデッサンし、鼻や目を表現することができましたか?	A B C	
7. 作品上でデッサンし、口や耳、髪を表現することができましたか?	A B C	
8. 仕上げ作業をして、自分の表現意図に合わせて作業することができましたか?	A B C	
9. 友だちの作品を鑑賞して、よい点を見つけることができましたか?	A B C	【誰のどんなところがよかった?】
10. 最終的にあなたが表現したいと思ったことを書きましよう。また、作品にタイトルをつけましよう	【表現意図】  【タイトル】 『	』